



国際認定ラクテーション・コンサルタント® (IBCLC®) 資格試験合格点調査

対象
ラクテーション・コンサルタント資格試験国際評議会® (IBLCE®)

2016年6月

作成者:

Lawrence J. Fabrey博士
心理測定学部門シニアバイスプレジデント

Lily Chuang理学修士
アソシエート・サイコメトリシャン

著作権 © 2016 ラクテーション・コンサルタント資格試験国際評議会® (IBLCE®)。独占所有権。無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、電子的または機械的な手段を問わず、IBLCEからの書面による許可なく、複写、記録、情報検索システムを含め、いかなる形式または手段でも複製または転載することはできません。

www.goAMP.com

序論

この調査は、ラクテーション・コンサルタント資格試験国際評議会®(IBLCE®)国際認定ラクテーション・コンサルタント®(IBCLC®)資格試験の合格点(カットスコア)を決定することを目的として行われました。合格点を決定するにあたり、試験に合格するための最低限の基準が策定されました。受験者が認定資格を取得するためには、この基準を達成する必要があります。

専門職の基準設定プロセスとして、何らかの形式の判断基準が必要です。しかし、合格点の決定に関わる判断は、試験の目的について十分に熟知している有資格の専門家によって行われることが不可欠であり、専門家は試験内容の分野において、どのレベルの適正が妥当として求められるべきかを判断できるだけの知識と経験を持ってはなりません。さらに、判断は試験の形式と目的を考慮した意義のある方法で行われる必要があります。このレポートでは、Angoff法(1971)による合格点決定手順の方法と結果について説明し、試験のための所定の合格/不合格カットオフポイントの妥当性を文書化しています。

調査方法

Angoff法は、PSIビジネス(PSI / AMP)であるAMPによって推奨され、合格/不合格のカットオフスコアを推定する手順としてIBLCEによって採択されました。Angoff法の根底にある考え方は、基準値が項目の難易度、特に合否境界線上の受験者に期待される難易度に関連しているべきであるということです。したがって、この技法により審査員は各試験項目ごとに期待される成績の評価を行う必要があります。Angoff法を完了するためにはいくつかのステップを踏む必要があります。これらのステップを完了するために使用される手順は、以下の通りです。

1. **審査員の選出。**合格点調査会に参加した審査員は、11名の専攻分野専門家で構成されました。こうした専門家は、専門分野や地理的分布など、受験者全体の人口を反映し、適切な特性の均衡を持てるように選出されました。
2. **評価手順のトレーニング。**2014年11月に開催された会議にて、合格点調査の目的と手順が議論されました。トレーニングのプロセスとして、いくつかの項目についてグループディスカッションが行われました。それらの各項目について、審査員は個々の評価を提供し、自身の評価を発表しました。審査員は、評価を行うにあたり考慮した要因、特に、比較的高い評価または低い評価の要因について検討しました。
3. **適正基準の定義。**審査員は、最低限の適正を有する者(MCP)、すなわちIBCLC試験の合格に足りるに十分なだけの知識を証明できる者の定義について、議論しました。通常、MCPは安全かつ有能に実践できるだけの知識を有しています。審査員は、MCPが習得するのが特に容易な内容、または難しい内容の分野について議論し、その議論の結果を文書化しました。
4. **評価の解釈。**審査員は、各項目の正解と評価を提供するよう指示され、それから解答キーの妥当性を考慮して解答を見直し、返答に照らし合わせながら必要に応じて評価を修正しました。例えば、審査員は、初期評価が出されたときに間違った解答を出した項目については、評価が高すぎる可能性を考慮するように特に忠告されました。すべての審査は個々に行われました。しかし、審査員は、議論の必要があると思われる項目を見分けるように求められました。初期評価の完了後に、いくつかの項目が議論され、審査員の評価に若干の変更が加えられました。

分析と結果

審査員達の推定合格点は類似しており、下は80、上は85となっていました。審査員の推定合格点の平均は82.25であり、これは項目が175である試験に適用すると、144が合格通過点となることを表します。

識別指標値を計算し、個々の審査員によって行われた評価と、他の審査員の評価の合計との関係を分析したところ、各項目に対する全体の相関に類似した結果となっています。識別値(0.71から0.85の範囲)は評価の良好な信頼性を表しており、これは評価者のトレーニングが効果的であったことの1つの証明要因です。

結論

任命されたIBLCEの代表者は、この調査の結果を検討し、2016年春のIBCLC試験で採用する合格点を決定しました。調査結果が提示され、例えば信頼区間の推定値の1つを適用する、または試験に紐づく統計的パラメータ(例えば、平均 p 値)を考慮するといった調整が適切であるかどうかを考慮されました。こうした新しい試験の難易度を過去の試験の骨組みと比較できるようにするため、試験後に試験得点の等化が算出されました。この「現実の確認」(Livingston and Zieky, 1982)の目的は、IBLCEが想定する試験の目的と意図する使用方法が、試験結果と合致していることを立証することでした。議論を経て、IBLCEの職員は、2016年春試験のIBCLC試験の合格点の素点を128とすることを満場一致で承認しました。

このレポートに記された合格点調査は、2015年に完了し他の場所で文書化された国際的な実践分析研究に基づいて確立された最新の試験仕様(詳細な内容の概要)を用いた結果として実施されました。2016年春のIBCLC試験のために設定された合格点の素点は、次回の試験分析が完了するまで、適正能力の新しい基準として役立ちます。これは128という素点が今後のすべての試験形式に合格点として適用されることを意味するのではなく、将来の試験において同等の知識量を表す合格点を識別するために、統計的な等化の手順が用いられることを意味します。新しい項目が試験ごとに導入されるため、また、試験の実施や項目分析の見直しがあるまでは項目の難易度がわからないため、合格点の素点はそれらの新しい項目の難易度を反映して上下します。等化の結果は、各試験の合格点を承認するためにIBCLEによって見直し・使用されます。

参考文献

Angoff, W. H. (1971). Scales, norms, and equivalent scores. In R.L.Thorndike (Ed.), *Educational Measurement* (pp. 508-600). Washington, DC: American Council on Education.

Livingston, S.A. & Zieky, M.J.(1982). *Passing scores - A Manual for Setting Standards of Performance on Educational and Occupational Tests*. Princeton: Educational Testing Service.